

無所属市民派 西東京市議会議員



森てるおの なんでもりポート 第19号

2004年3月発行（隔月発行） 定期購読料：年間1,000円（送料含む）
編集：森てるお事務所 発行：森てるおと市民の目

地方政治のゆくえ

財政は破綻状態

地方政治はバブル崩壊後も規模こそ毎年縮小してきたものの、バブル期までの財政構造が維持されてきました。この財政構造を支えてきたのが地方の財源不足を補う地方交付税制度や政府補償の借金と補助金でした。バブルの崩壊後は税収が大幅に落ち込んでいましたから、最初は国自身が借金し、後には地方に借金させて地方財政分をまかなってきました。

財政構造を変えるのではなく、税収不足を借金で補った結果、現在では国と地方の借金の合計額は国の年間予算の9倍、720兆円にまで膨らんでしまいました。国の予算の40%くらいは新たな借金ですから税収との比較だと14~15倍です。破綻状態だということは誰の目にも明らかです。

原因はたかりの構造

地方自治体の財政運営の大原則で「最小の経費で最大の効果を上げなければならない」というのがあります。私は単純にムダ遣いをしてはいけませんよと解釈しています。しかし、国が望む公共事業をやれば借金もさせるし補助金も出すという国の誘導策のせいで、単純な解釈がわきに押しやられてしまいました。国から補助金をもらって見栄えのいいハコモノを作り、見かけ上の財政規模を膨らませることが「最小の経費で最大の効果」と解釈されるようになりました。自分の懐からではなく国の支出でものを作る、たかりの構造です。国が地方支配のために、地方に十分なお金を渡さず、国に依存せざるを得ないようにと作りだした仕組みです。合併特例債もこの構造の中に含まれます。バブル崩壊後も借金でこの仕組みを維持しようとしたために、破産状態に陥ってしまったわけです。

地方政治のこれから

国はこの制度を維持したいができません。そこで地方分権とか三位一体改革などが出てきたわけです。地方はどうすればいいのでしょうか。

私は合併の前から「見栄と羨望を捨てれば国に財政依存しなくてもやっていける」といつてきました。近隣との見栄えを競う「地域間競争」をやめて、身の丈にあった自治体運営をすればいいだけです。たかりの構造の中で地方自治体はいわば餓鬼道に落ち込んでおり、多くの市民はもう続くわけがないと思っているのに、関係者だけが空腹感を募らせている状態です。

これからは財政規模は当然縮小します。だから、財政状況、財政見直しを含めた徹底した情報公開を基礎にして、市民監視、衆人環視の中で政策の優先順位を決めていくことが不可欠です。こうすることで一部の人利益を得るたかりの構造が防げます。財政支出も全体経費への波及効果を踏まえたものに変えていくことができます。ハコモノ行政ではなく、市民の健康や生活を中心に据えた行政にすることが必要です。「納得できる行政」はこうして作られていくものだと考えています。

森てるおと市民の目 収支報告

「森てるおと市民の目」は政治資金規正法に基づく森てるおの政治資金管理団体として届出をしています。東京都選挙管理委員会に収支報告書を提出しますので、その内容をご報告いたします。

収入 (2003年1月～12月)

会費 (11名分)	33,000円
寄付金 (9件)	38,000円
拡声器購読料	18,000円
懇親会会費等	39,000円
本年度の収入	128,000円
前年度からの繰越金	24,025円
計	152,025円

支出

森てるおと市民の目発行費	29,051円	(印刷費・郵送料等)
森てるおの拡声器印刷費	22,680円	(会員分、先刷分等)
懇親会等事業費	22,868円	
計	74,599円	

次期繰越金 77,426円

昨年もたくさんの方々から会費、寄付金のご協力をいただきありがとうございました。今後も日頃の議員活動を充実させるために引き続きご協力をお願いいたします。

～議員活動インターン生 中間報告～

森てるおはNPO法人I-CAS主催の議員活動インターンシップ(学生が議員活動を体験するプログラム)に参加しています。1月に8人目のインターン生を迎えて2か月余りが経ちましたので、この機会に「中間報告」をしてもらいました。

私は大学に入り政治学を学んでいますが、政治という分野は決して得意な分野ではなく、むしろ嫌いな分野です。大学3年生になり、就職活動などで忙しくなる前の2年生のうちに、学校以外で勉強できる何かを経験してみようと思い始めました。そんな時に、たまたま目にしたポスターでI-CASを知り、机の上の学問だけでなく、自分の目で政治を見るということによって、苦手意識のある政治を身近に感じることができるのではないかと、苦手というだけで政治に目をつぶっているだけではいけないと思い、I-CASを通して森さんの下で議員インターンシップを経験することにしました。

インターンでは、私一人では経験し得ない様々なことを森さんの力をお借りして経験することができました。例えば、支持者の方や、市役所の各課の方に直接お話を伺ったり、市民運動の会合に同行させていただいたりしました。私は児童や福祉に関心があるので、障害を持った方のお話を伺ったことや、虐待についての講演会に出席したことは特に印象に残っています。

行政の現状を知ることによって感じたことは、私が思っていた以上に理想と現実とはかけ離れているということでした。現実が理想に追いつくには、かなり多くのリスクが生じるということです。行政は市民のためのサービスを行う所である、と単純に認識していましたが、時には行政の判断によって困ったり、苦しんだり、自分の生活もままならなくなるという市民もいるのだと知りました。また、インターンを始めてから、私が住んでいる街では一体どんな問題を抱えているのだろうか、と疑問に思うようになりました。もし、インターンに参加していなかったら、自分の住んでいる街に興味すら持たないで生活し続けていたと思います。

残り1ヶ月間インターン活動が残っています。3月議会もあり、より多くのことを勉強できるよう頑張りたいと思います。(武蔵野大学(旧称:武蔵野女子大学)現代社会学部 小川征子さん)

森てるおの活動記録(2004年1～2月)

主なものを掲載しています。

1月6日	駅頭宣伝(～22日)	2月7日	荒川自然公園視察調査
8日	土地開発公社評議員会	10日	議会運営委員会/議員研修
14日	農薬問題対市交渉	11日	開かれた議会をめざす会講演会
17日	ロングピースウォーク	15日	講演会「これって...虐待?」
19日	議会報編集委員会	20日	駅周辺再開発等特別委員会/語る会(田無)
20日	三多摩議員ネットワーク合宿(～21日)	23日	全員協議会/森てるおと語る会(保谷)
24日	環境施設帯協議会	27日	議会運営委員会/都市計画審議会
30日	議員表彰制度廃止申し入れ記者会見	29日	講演会「たばこの中にもダイオキシン」